

おんどくさん
恩徳讃

■ 楽曲データ

歌詞：親鸞聖人御和讃

楽曲：澤康雄 作曲（藤井清水 編曲）

発表：浄土真宗本願寺派ハワイ開教区 1918年

初演：—

初出：『らいさん』 本派本願寺布哇開教教務所文書部 1918年

管理番号：M1806

■ 創作の経緯

初出資料は、ハワイ別院落慶入仏法要記念として発刊された楽譜集。収載された20曲は、ハワイ開教本部付職員の澤康雄（東京音楽学校卒）と作曲家の山田耕筰（澤の師）による。発表時は、二部合唱形式。のちに三部合唱および四部合唱に編曲。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第1巻収録

底資料：『和英標準佛教讃歌勤式集』 本派本願寺内翻譯課 1939年

比較資料：『佛教讃歌集』 本派本願寺 1940年

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

□ 仏教讃歌を歌う心構え——恩徳讃を教材として

仏教讃歌はその用途や形態にかかわらず、つねに仏徳讃嘆の心の表現として歌われるべきものであり、また宗教的情操を育て、宗教的なよろこびを歌い上げるものであります。

声を合わせて同じ歌を歌うという行為は、それ自体、「協調」「共感」「一体感」を育むものといえます。とりわけ、仏教讃歌は、宗教的情操を養うとともに、よろこびを共感する空間を創り出します。その意味では、みんなが声を合わせて明るい声で歌うことが、非常に大切なポイントになってきます。

メロディーのあちこちに「こぶし」をつけたり、歌い始めの声をずり上げたり、音をとらずに（音の高さを決めずに）やみくもに歌い始めたり、各自が勝手な高さ（調子）で歌ったり、歌いにくい高さの部分だけオクターヴ下げたりすることは、ぜひ避けたいものです。

仏婦会員またはそのご家族で、オルガンなど鍵盤楽器に慣れた方のご協力を得るか、あるいは本願寺出版社発行の音源（CDなど）を活用して、前奏に続い

て全員がそろって歌い始めるようにしましょう。そうすれば、各種の集いで感動的な仏教讃歌が歌われ、聴かれる日も近いはずです。

解説執筆：仏教音楽研究所 [現・総合研究所 (仏教音楽・儀礼研究室)]

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No.2 (仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第127号収録) を加筆・修正の上、転載。

Copyright : Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.